

名胡桃城跡 ごあんない



戦国初期の山城の姿



名胡桃城址下車地点(バスは中村)



鳥越山如意寺

名胡桃初代の城主名胡桃三郎景冬の姉如意姫は召されて京へ上り、采女として宮つかひの身となった。帝の寵愛殊の外深く遂に懷妊、再び故郷に戻つて来た。
若宮出生只管育成に務めたが、御歳些に三才で夭折して仕舞つた。
姫は悲胆やるかたなく、自ら剃髪して仏門に入り、如意尼として亡き若宮菩提の為一生を捧げた。此の如意庵が如意寺の前身であり、鳥越山如意寺の開基である。

発行所 月夜野町観光課・名胡桃城址保有会

北条滅亡の運命と名胡桃城

和睦交渉に依り沼田其他の城は北条領となり、名胡桃城だけは真田の所領として治まつたにも不掛、其の直後に於て、沼田城代猪股能登守範直は私心を以て手兵を率い、和睦を敢て破り、名胡桃城を攻略するに至つた。秀吉は、其の不信無道を怒り、即ち勅定を仰ぎ天正十七年十一月に至り、天下に檄を飛ばして、北条総征伐の驚天動地の大活劇となつた。
かくして北条は遂に天正十八年七月を一期として、早雲以来五代氏直を以て滅亡し、秀吉一代の宿望であつた天下統一の大業は完成するに至つたのである。其の直接原因が上記説した通り此の城により因を成したものである。



北条が名胡桃城を攻略した其の後の処置につき秀吉より真田昌幸へ与えた下治状



安房守真田昌幸自画像の像。



本丸跡 名胡桃城址記念碑 徳富蘇峯先生撰

名胡桃の郷

名胡桃の名は遠く倭名抄に見え(謂田、男信、笠科)と俱に沼田が四つの郷であった時の一郷で、其の時代は三国嶺下越後界より子持山麓に至る利根の川西一体を名胡桃の郷と称せしもの如し。

城の起り

越後路より関東への唯一の重要通路の押えとして、大利根赤谷の両川に守られ、利根の大半を一望に治め、而も三方絶壁屏風を立てたるが如き天恵の要害此の地に早く目を付けられたのが、沼田氏五世荘田の城主上野介景繁の長子勘解由左衛門景久であつた。

永正の頃城を築き三男名胡桃三郎景冬をして之に当らしむ。後沼田氏亡ぶに及び真田氏の所領となり、一徳斉幸隆並に安房守昌幸に及び城代として鈴木重則之に当る。



名胡桃築城の
沼田景久の像



真田安房守昌幸着
用の昇梯子の具足

豊臣氏は本能寺の変以来織田氏に替り向う所敵なく天下の大業を掌中に治め京師に上り、関白大政大臣に任せられ、名実共に將軍職に就くと雖も北条一簇今尚関東管領として、小田原に累世の権力と天険の名城とを頼みて、秀吉の屢々上洛を促すも肯せず、又奥州の伊達政宗は北条の動静を窺て秀吉に従わず、秀吉一代の念願天下統一の覇業未だ成らず、氏政に強いて上洛を促す。北条氏政此の時に及び上洛の交換条件として、沼田名胡桃諸城を得ば上洛せんと答う。秀吉止むを得ず昌幸に其の旨を諭し、信州伊奈一郡の替地を以て応ずる事を命ず。昌幸は殿下の命と雖も名胡桃の城は臣か墳墓の地なれば命に従う事を得ずと答う。為に名胡桃城を残し他は全部北条に与え北条、豊臣両家の平和交渉は一応成立した。

昭和三十四年十二月群馬県指定史蹟
文部省指定史蹟申請中
祭日 四月二十日

名胡桃城址は今を去る四百有余年の昔豊臣秀吉が天下を統一するに当り、其の最終段階大詰の一幕であつた。北条攻の事が直接此の城より原因を起し、遂に勅定を以て北条一族を小田原に滅亡させ、又奥州の伊達政宗は自ら秀吉の膝下に降り、豊家一代の念願であつた天下統一の大業は完成した。この様な日本歴史豊臣時代に極めて重要な一役を果した史址である。